

(別紙2)

介護ロボット使用状況報告書

平成 31 年 4 月 5 日

法人名	施設名	施設の種別
社会福祉法人康和会	特別養護老人ホーム オレンジガーデン	介護老人福祉施設
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
見守り支援機器	キング通信工業(株) シルエット見守りセンサ	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成 31 年 3 月 27 日	1 台	
【介護ロボットの使用状況(使用する業務・使用頻度等)】 導入前は新規利用者が入所される際、サマリー等で記載している情報を確認し、ご利用者様の御様子を把握するように努めているが、細かい動き等、情報と違う動きをされる利用者様も多く、最初に設置するセンサを選ぶ際に苦勞する職員がいる現状もあった。サマリーの情報を基に予測した利用者の動きに効果的であろうセンサを選定・設置しているが、予測出来ていなかった行動により、センサが反応せずに転倒・転落事故が発生してしまうことも多々あった。特に動きが読みづらい夜間帯で新規利用者にシルエットセンサを設置することにより、安全かつ安心してこれからのケアに結びつけることが出来ている。		
【介護ロボットの導入効果(導入による業務改善状況等)】 ・シルエットセンサを導入する前は、着床・タッチ・ピンセンサを主に使用していた。利用者の事前情報を基にセンサの種類を選定していたが、シルエットセンサは上記3種のセンサ性能を有しており、センサを選定する時間、労力を削減出来ている。また映像として残っている為、今後のセンサの選定やケアの方針を決定する材料となり、利用者の事故リスクを下げるケアに繋がっている。客観的な見解ではあるが、最近の職員の様子をみていると、シルエットセンサがあれば安心して見守りをする事が出来るという風土ができており、不安やストレスが緩和している様子も見受けられている。		

【介護ロボットの不都合な点】

- ・スマートフォンのシルエット画面が小さいためやや見にくい。
- ・ベッド周りにあるカーテンの揺れや床に設置しているマットレス・光等でセンサが反応してしまうことがある。
- ・介護システムと連動していると情報の共有や記録などに、より活用できる。
- ・見守りエリア設定の操作で、横幅・高さマージン値を設定すると精度が上がるが、全職員に操作方法を周知することが難しい。

(別紙2)

介護ロボット使用状況報告書

平成31年3月15日

法人名	施設名	施設の種別
有限会社 グループホーム光	グループホーム光	グループホーム
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
見守り	シルエット見守りセンサー	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成 31年 3月 5日	1台	
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 今回の導入は1台だったので、最高齢の利用者さんの居室に設置した。ベッドから離床すると、既存のIpadに連絡が来るので、転倒の防止に役立っている。また、夜勤帯は離床センサーでは危険かどうか分らなかった警報音に対して、画像で確認することができ、他の利用者へのサービスの提供との優先順位が付けられるようになり、見守りへの負担も軽減されている。		
【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】 通常のセンサーを利用している際は、必ず居室まで移動して確認していたのが、画像を確認することで今の状況が分かるようになった。居室までの移動の無駄が省けた。夜間に見守りで部屋のドアを開けて、不要に起こしてしまうことなく、安眠が保てている。利用者のご家族にも好評をいただいている。		
【介護ロボットの不都合な点】 夜間は効果が高いが、日中の光が強く入り込んでいるときは、画面が黒く表示されてしまい、カーテンなどで、光量を調整しなければならない。数台の導入が必要だが、高価なため、導入が難しい。		

(別紙2)

介護ロボット使用状況報告書

令和 2 年 3 月 3 日

法人名	施設名	施設の種別
社会福祉法人康和会	特別養護老人ホーム オレンジガーデン	介護老人福祉施設
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
見守り支援機器	キング通信工業（株）シルエット見守りセンサ	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成 31 年 3 月 27 日	1 台	
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 シルエット見守りセンサを最初に利用してから3年が経過し、昨年度は増台の為の助成金活用であった。台数が増えることにより、より多くの利用者に使用することができ、増台したセンサは導入から、特別養護老人ホーム利用者に毎日使用している。		
【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】 ・シルエットセンサを導入する前は、着床・タッチ・ピンセンサを主に使用していた。利用者の事前情報を基にセンサの種類を選定していたが、シルエットセンサは上記3種のセンサ性能を有しており、センサを選定する時間、労力を継続して削減出来ている。また映像を使用し、今後のセンサの選定やケアの方針を決定するエビデンスとなり、利用者の事故リスクを下げるケアに繋がっている。継続して、シルエットセンサがあれば安心して見守りをする事が出来るという風土ができており、職員の不安やストレスが緩和している。		
【介護ロボットの不都合な点】 ・スマートフォンのシルエット画面が小さいためやや見にくい。⇒タブレット兼用により解消する。 ・ベッド周りにあるカーテンの揺れや床に設置しているマットレス・光等でセンサが反応してしまうことがある。⇒見守りエリア設定の操作で、横幅・高さマージン値を設定すると精度が上がるが、全職員に操作方法を周知することが難しく、個々の設定にまで至っていない。 ・介護システムと連動していると情報の共有や記録などに、より活用できる。⇒NDソフトに要望を出し、メーカー同士の打合せはしてもらった。		

(別紙2)

介護ロボット使用状況報告書

令和2年3月3日

法人名	施設名	施設の種別
有限会社 グループホーム光	グループホーム光	グループホーム
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
見守り	シルエット見守りセンサー	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成 31年 3月 5日	1台	
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 最高齢の動きの予測できない利用者の居室に設置。ベッドから離床すると、連絡が来るので、転倒の防止に役立っている。また、夜勤帯は離床センサーでは危険かどうか分らなかった警報音に対して、画像で確認することができ、他の利用者へのサービスの提供との優先順位が付けられるようになり、見守りへの負担も軽減されている。		
【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】 通常のセンサーを利用している際は、必ず居室まで移動して確認していたのが、画像を確認することで今の状況が分かるようになった。居室までの移動の無駄が省けた。夜間に見守りで部屋のドアを開けて、不要に起こしてしまうことなく、安眠が保てている。利用者のご家族にも好評をいただいている。		
【介護ロボットの不都合な点】 夜間は効果が高いが、日中の光が強く入り込んでいるときは、画面が黒く表示されてしまう。また利用者の数人に必要だが、高価なため、導入が難しい。		